

平成 23 年度決算の概要について

〔平成 24 年 6 月 14 日  
一般社団法人 第二地方銀行協会〕

会員行の平成 23 年度決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 24 年 3 月末時点の会員行 42 行ベース（特記ある場合を除く）

1 . 損益概況（業務純益：3,455億円、経常利益：2,071億円、当期純利益：1,118億円）

平成 23 年度決算の業務純益は、一般貸倒引当金の戻入額が増加したものの、資金利益や国債等債券関係益が減益となったため、3,455 億円と前年度比 36 億円、1.0%の若干の減益となった。

経常利益は、不良債権処理額の減少等を主因に 2,071 億円と同 +514 億円、+33.0%の大幅な増益となった。

当期純利益は、法人税率変更に伴う繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額が増加したものの、経常利益の大幅な増益に加え、前年度の東日本大震災による特別損失の剥落の影響もあり、1,118 億円と前年度比 +367 億円、+48.9%の増益となった。

2 . 業務純益の状況

(1) 資金利益（9,314 億円、前年度比 158 億円、 1.7%）

資金利益は、前年度比 158 億円、 1.7%減益の 9,314 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高（平残）は増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同 158 億円、 2.0%減少して 7,768 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、1,626 億円と横ばい（同 +2 億円、 +0.1%）となった。

(2) 役務取引等利益（679 億円、前年度比 +27 億円、 +4.1%）

役務取引等利益は、保険窓販業務手数料の増加等を主因に、前年度比 +27 億円、 +4.1%増益の 679 億円となった。

(3) その他業務利益（513 億円、前年度比 67 億円、 11.6%）

その他業務利益は、国債等債券売却益の減少を主因に、前年度比 67 億円、11.6%減益の 513 億円となった。

(4) 経費（7,306 億円、前年度比 +25 億円、 +0.3%）

経費は、7,306 億円と前年度比 +25 億円、 +0.3%の若干の増加となった。

### 3. 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、705 億円と前年度比 590 億円、45.6%の大幅な減少となった。

一方、金融再生法開示債権(破産更生等債権、危険債権、要管理債権)は、破産更生等債権が倒産件数の減少等を主因に減少したものの、危険債権および要管理債権は増加したため、前年度末比+585 億円、+3.5%増加して1兆7,176 億円となり、開示債権比率も同+0.07%ポイント上昇して3.80%となった。

### 4. 経常利益および当期純利益の状況

経常利益は、業務純益が若干の減益となったものの、不良債権処理額の減少等を主因に、2,071 億円と前年度比+514 億円、+33.0%の大幅な増益となった。

当期純利益は、法人税率変更に伴う繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額が増加したものの、経常利益の大幅な増益に加え、前年度の東日本大震災による特別損失の剥落の影響もあり、1,118 億円と同+367 億円、+48.9%の増益となった。

### 5. 単体自己資本比率[国内基準41行](自己資本比率:10.41%、Tier 比率:8.28%)

単体自己資本比率は、リスクアセットが若干増加したものの、自己資本額が当期純利益の増加や増資等により増加したことから、前年度末比+0.10%ポイント上昇し、10.41%となった。

また、Tier 比率は、同+0.30%ポイント上昇し、8.28%となった。

### 6. 預金および貸出金(末残)

#### (1) 預金(59兆6,704億円)

預金(末残)は、前年度末比+2兆663 億円、+3.6%増加して59兆6,704 億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金とも増加した。

#### (2) 貸出金(44兆6,644億円)

貸出金(末残)は、前年度末比+7,878 億円、+1.8%増加して44兆6,644 億円となった。

以上